

## 渡辺製作所

# 測定装置市場に参入

### 光ファイバー用 来月2機種投入

【さいたま】渡辺製作所(さいたま市桜区、渡辺伸治社長、048・856・0855)は、光ファイバーを用いた測定装置市場に参入する。光ファイバーセンシングシステム「CES/DWPR-100」や「CES/DTR3-100」の2機種を10月1日に発売する。独自の相関処理ボード「CEB」を搭載し、温度や歪みなどを約1.6秒で測定できる。価格は両機種とも100万円。環境関連の研究用向けなどに提案し、年間計100台程度の販売を目指す。

CEBが疑似ランダム

信号をセンサー側に発信し、反射した信号を高速解析する仕組み。「反射量から温度や歪みなどを割り出す」(センサ事業

部)としている。

同DWPR-100は自社センサー用装置。信号分岐装置を用いることにより、複数のセンサーで最大32点を同時計測で



歪みなどを1.6秒で測定できる光ファイバーセンシングシステム

を割り出すFBGセンサーと組み合わせる「構造

物のモニタリングなどでも使える」(同)としている。

渡辺製作所はLANコネクタや接続端子板などの各種通信用機器が主力。「環境や医療などの成長産業につながる事業領域」(渡辺達郎取締役)と位置付けて市場参入を決めた。

きる。

一方、同DTR3-100はFBG(ファイバー・ブラッグ・グレーティング)センサーなどの市販品に対応する。歪み